

1. 日本の医科大学，大学医学部における社会医学教育の現状

医学教育の目的は言うまでもなく医師の養成であるが，養成される医師については優秀かどうかより，良い医師であるかどうか重視されることが多い。良い医師とは患者や家族の立場に立って診療を行えることであり，患者や家族の立場に立つためには他人を思いやる人間性とともに，その背景を理解することが求められる。医学生に社会性を直接具体的に教育する科目としては，公衆衛生学を中心とする社会医学教育がまず挙げられる。しかし現実には医学生にとって，公衆衛生学等社会医学の教育は制度や統計を覚える退屈なものと思われ，国家試験の中で比較的大きな割合を占めているから勉強する科目ではあっても，試験がなければあえてそれを学ぶ必要を感じていないのが実情である。たまに多少興味を持つ学生が現れても，あえて社会医学を専門にしようとする学生は多くなく，僅かな数のそういう学生も，いざ卒業後の専門領域の選択にあたっては，多くの場合臨床医である親の反対で断念するという経験をしてきた。

しかし学生が社会医学に興味を持たない原因を学生やその親に求めていると，問題は解決しない。そもそも教育を行う側に，医学生に社会医学教育をする必要性が認識されているのか，から問われなければならないのが実情である。

通常，医学部の教育科目の中で社会医学というと衛生学，公衆衛生学，法医学が含まれるが，ここでは法医学については触れない。また1991年の大学設置基準の大綱化以降，前2者についても様々な名称が用いられるようになってきている

が，米国やアジアで使われる「公衆衛生学」で代表させて以下論ずる。我が国には全国の医学部，医科大学の衛生学公衆衛生学の教授が集まる衛生学公衆衛生学教育協議会という組織があり，毎年2回会合を持ち意見交換を行っている。しかし，その構成員である衛生学，公衆衛生学講座の主任教授といっても，中毒学，人類遺伝学などの実験を中心にした基礎医学者や，行政から転職してきて専ら保健医療政策を担当する人など様々である。この協議会の中で，社会医学教育の目的に関する議論が行われることもないわけではないが，あまり本質的な議論ができていない。より専門として明確な公衆衛生系専門職大学院の評価基準¹⁾においてすら，公衆衛生学が何であるかの明確な定義は示されておらず，加盟教育機関の成立事情に配慮して，それぞれの教育機関の特色を活かすということが強調されているのみである。筆者が学生の頃，公衆衛生学教室の教授が「何をやっても公衆衛生学である」と言っていた。確かに公衆衛生学は人の健康と生活のすべての面に関わるが，文字通り「すべて」であるなら，あえて過密な医学教育の中に公衆衛生学を含める必要はなくなる。その意味で，医学教育の中での公衆衛生学の果たす意味と役割について，我が国の関係者は真剣に考える必要があろう。

2. 世界の動き

20世紀末に始まったアウトカム基盤型への教育の大きな改革の動きは医学教育にもおよび²⁾，それまでの伝統的なカリキュラムから始まるプロセス基盤型教育からの転換を促した。それは医師を取り巻く社会の変化とも対応した，強い必然性を持つものである。ここでいう変化の第1は人口の高齢化と疾病構造の変化である。また，急速な医学の進歩と医療技術の高度化は医療費の高騰を招くとともに，医師や医療の姿を大きく変えた。

^{*1} Social Medicine Education

^{*2} Eiji Yano 帝京大学大学院公衆衛生学研究科

そして医師のあいだでも高度に専門分化が進み、一人の医師が患者を全体的に診られなくなる一方、患者や国民の医療に対する要求水準は高度になってきた。こういう医療とそれを取り巻く社会の全体的変化の中で、求められる医師の能力が従来とは異なり、単に十分な医学知識と医療技術だけでは不十分で、医師は多職種の医療チームの中でリーダーとしての役割が期待され、そこにおける公衆衛生教育の持つ意味はむしろ大きくなっている。

2010年にランセット誌上に「21世紀の保健医療職の教育」と題するレポート³⁾が発表されたが、このレポートの中では20世紀以来の保健医療職の教育を段階に分け、21世紀の保健医療職教育は、能力（competency）形成をアウトカムとする変革・発展（transformative）の段階にしていかなければならないとしている（表1）。そしてこの段階の教育ではまず、学習アウトカムを定めなければならないが、アメリカ公衆衛生大学院協会では公衆衛生学修士のアウトカムとして、

5つの公衆衛生の専門領域別能力（疫学、生物統計学、環境保健学、保健政策経営学、社会行動科学）に加えて、7つの領域横断的な能力を挙げている⁴⁾（表2）。

公衆衛生専門職に求められるものと、臨床医を中心にした医師一般に求められる公衆衛生能力はもちろん同じではないが、医学教育の中で公衆衛生の講座が学生に教育していくべきものを直接表現しており、これらのいくつかはまさに初めに述べた「良い医師」の資質ともいえるものであると考える。

3. 社会医学実習教育の現状

ここまで見てきたように、新しい教育の中心は知識付与だけでなく、良い医師としての資質・能力の形成であるとする、100人を超える教室での講義よりも、実習の果たす役割が大きいと思われる。実は上述の衛生学公衆衛生学教育協議会の会員校における社会医学実習について、筆者は全国調査を2005年に行った⁵⁾。その結果、社会医

表1 100年間の保健医療専門職教育の発展（文献2）より作成）

Levels of Learning (段階)	Informative (知識獲得)	Formative (概念形成)	Transformative (改革・発展)
時期	20世紀初期	20世紀中期	21世紀
基盤	科学の体系	現場の問題	保健医療へのニーズと供給システム
課程	科学的教育課程	問題対応型（PBL）	資質・能力形成 (地域・世界で通用する)
組織	大学	学術センター	保健医療職養成システム
目的	知識と技術の修得	価値への対応	リーダーシップなどの資質・能力
成果	専門家	専門職	保健医療組織の変革

表2 アメリカ公衆衛生大学院協会のまとめた公衆衛生学修士の領域横断的資質・能力

1. Communication & Informatics：他者との意思疎通能力
2. Diversity & Culture：異なる文化習慣背景の理解
3. Leadership：指導性
4. Professionalism: 職業への情熱と責任感
5. Program Planning：計画立案力
6. Public Health Biology：社会と生物医学の関係性の理解
7. Systems Thinking：問題や計画を組織や体系で考える

学実習が具体的な目標を持って行われていない場合が非常に多いことが明らかになっている。そしてその内容も約 20 年前までは保健所実習が大多数であった。そこでは保健師等の保健所職員の講義と家庭訪問に同行しての見学実習が中心で、今から思うと、臨床医学の実習を経験している医学生に、興味を持ってというほうが無理な実習でしかなかった。しかしそれすら看護大学が急増する中、保健所業務の一つとして法的に規定されている看護学生の実習が優先され、医学生は社会医学実習の場を失い、多くの大学で社会医学実習は単に公衆衛生関係の課題についてのレポートに転じていった。誰もがインターネットを使ってかなりの情報を入手できる今日、こうした実習で学生の公衆衛生の能力を高めることは難しく、学生が公衆衛生に興味を持つはずもないのは明らかである。

4. シミュレーションエクササイズによる社会医学実習

筆者らはそういう社会医学実習の現実に対して 1995 年から、大幅な改変を行い、ケースメソッドによるシミュレーションエクササイズを行うようになった⁶⁾。その詳細は一連の出版物^{7,8)}やメディア媒体⁹⁾として発表しているのでもちろん参照していただきたいが、直接には米国のビジネススクールのケースメソッドと、いわゆる paper patient より発想を得た。具体的には臨床医として出会う社会医学的問題のケース（症例や状況）を 4 人から 10 人の実習チームの学生に提示し、その問題に対してグループ討議と調査分析を行い、解決策を考える中で社会医学の能力を養うという教育である。ケースの例を表 3 に示す。この実習では当初は、一つのケースに対して調査や議論を促す 10 から 20 の設問を提示し、その設問に導かれて学生は問題解決に至っていた。しかし、問題を定式化すること自身が問題解決の重要な第

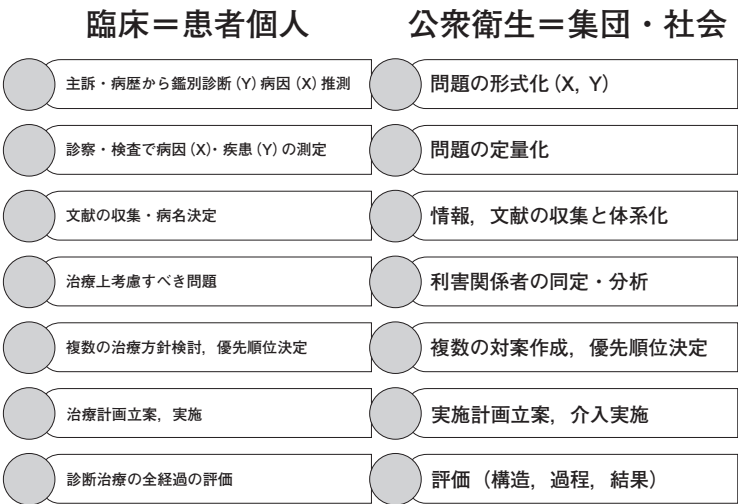


図 1 臨床医学と対比させた公衆衛生学的問題解決の手順

表 3 シミュレーションエクササイズで用いたケースの例

①筋萎縮性側索硬化症の患者に呼吸器を装着すべきか否かを家族と相談する
②女性医師が増える中で、病院のとるべき対応を考え、病院長に対する諮問案を作る
③内科医院を都内に開業するとして、立地選択、法律、必要な設備、人員を考える。

一步であり、現実にはどこに問題の核心があるかわからないことが多い。そこで、臨床医学の診断治療プロセスに対比させた一般的な公衆衛生学的問題解決のプロセスを提示し、学生自身に問題の定式化から解決策の提示まで行わせるように変えていった（図1）。この実習形式を導入した結果として、社会医学実習に対する学生の評価は劇的に変化し、教員側も学生の能力や独創的な考え方に驚き、実習にかかる学生の熱意に目を見張ることもたびたび経験した⁶⁾。

5. ファシリテータ制度：実習の成果の系統講義への応用

我々はこの実習における成功に学び、実習前に行われる系統講義においても、学生の学習意欲を高めるにはどうすればよいかを模索してきた。その一つがファシリテータ制度である。系統講義では教えるべきことが多く、しかも100人の学生に同時に授業するため、講義が一方方向性になりがちである。これに対して実習は少人数で学生が主体的に参加できる。そこで各講義にファシリテータを割り当て、その学生が教師と一緒に講義を準備し、講義の際は学生と教師を仲介し、ときには学生が講義の一部を進めるというシステムをはじめた。このシステムにより、当のファシリテータ学生には担当講義の際だけであれ、実習の時のような主体的な参加が確保されるのはもちろん、他の学生も教師からの一方向の講義とは違って、自発的な質問や意見発表など講義の進行に加わりやすく、関心も持ちやすくなった。

6. 最後に

学生が公衆衛生学を学習する意欲を高めるためには、講義のシステムだけでなく、講義内容自身の吟味も必要である。その際明確にしておかなければならないのは、医学校における公衆衛生学教育の目的は保健所で働く医師を養成することではなく、大多数の臨床医のための教育でなければならないということである。またアルバイトに嘱託産業医をする臨床医が多いが、産業医の養成も医学生が公衆衛生学を学ぶ目的ではない。もし将来、保健所に勤務するなら公衆衛生学は必須の学

問であるが、保健所の業務を担うには医学校の講義ではあまりに不十分である。産業医も実際にその資格を得るには50時間もの医師会認定の講習受講が必須であるから、そこで学ばばよい。前述の衛生学公衆衛生学教育協議会は、社会医学の講座や教員ポストが減らされ続けている現状に強い危機感を持っているが、そうであるなら、いま日本の社会で医師にとって必要な社会医学の資質や能力を真剣に考えるとともに、それに沿って教育方略を練り直す必要があろう。

■文 献

- 1) 公益財団法人大学基準協会. 公衆衛生系専門職大学院基準, 平成22年11月. http://www.juaa.or.jp/images/accreditation/pdf/handbook/public_health/2012/shiryou_01.pdf
- 2) Harden RM, Crosby JR, Davis MH. AMEE Guide No.14: Outcome-based education: *Medical Teacher*1999; **21**:7-14.
- 3) Frenk J, et al. Health professionals for a new century: transforming education to strengthen health systems in an interdependent world. *Lancet* 2010 Dec 4; **376** (9756): 1923-58. doi: 10.1016/S0140-6736(10)61854-5.
- 4) Calhoun JG, Ramiah K, Weist EM, Shortell SM. Development of a core competency model for the master of public health degree. *Am J Public Health* 2008; **98**:1598-607.
- 5) 矢野栄二, 山内泰子, 前田博, 日下幸則, 中堀豊, 本橋豊, 安村誠司. 大学医学部・医科大学における社会医学実習の教授目標. *日本公衆衛生雑誌* 2006; **53**: 285-92.
- 6) 矢野栄二, 田宮菜奈子, 長谷川友紀. 模擬演習 (Simulation Exercises: SE) による公衆衛生教育. *日本公衆衛生雑誌* 1998; **45**: 270-278.
- 7) 矢野栄二, 田宮菜奈子, 山内泰子 (編). ケースメソッドによる公衆衛生教育 - Simulation Exercise (SE) - 平成12年, 南江堂.
- 8) 矢野栄二・他編. ケースメソッドによる公衆衛生教育, 第2巻 (2003年), 第3巻 (2006年), 第4巻 (2008年), 第5巻 (2011年). 篠原出版新社, 東京.

- 9) 矢野栄二, 山内泰子, 高木晴良. ケースメソッドによる公衆衛生教育, 医学教育教材 CD-ROM. 平成16年2月文部科学省大学共同利用機関, メディア教育開発センター.
- 10) 矢野栄二・他. 学生参加型の衛生学公衆衛生学教育: Student Facilitator を用いた試み, 日本公衆衛生学会雑誌 1999; **46**(8): 644.